

世界の著名な特許にみる ————— 第12回

# 世紀の発明事業列伝

〈その思いつきが、時代を動かす〉

“からくり儀右衛門”こと田中久重 その2

～江戸時代ワンダーランドを知ろう～

モノづくりの素地『べっ甲細工の美術と技術』

驚異的な識字率・世界最高の教育先進国『寺子屋と藩校』

15歳発明少年と26歳発明婦人事業家タッグ『田中久重と井

上伝の久留米緋』

『東京国立博物館』案内・『伝統工芸青山スクエア』案内



芸術・科学・知財クリエイター・弁理士（雅号）

大樹 七海

## はじめに

舞台は九州、福岡県久留米市より始まります。ギエモン（田中久重）は、久留米市の皆様から、郷土の偉人、発明王として大切に伝えられています。

ゆかりの地に降り立ち、偉人を身近に感じ、その足取りを追いながら、幕末から明治の近代産業化へ至る、日本の産業科学技術史を同時に学んでいける構成としたいと思っています。加えて、日本の伝統や芸術史としても機能するような流れで進めていきますね！



久留米市・五穀神社にある「田中久重翁」の像  
出典 TOSHIBA 田中久重ものがたり



出典「からくり儀右衛門（田中久重）の生涯」久留米市

## 1. モノづくりの家に生まれる

ギエモンは1799年(寛政11年)9月18日に、当時の筑後久留米藩、久留米城下の通町十丁目に生まれます。

通町は、城下町を東西方向に延びる当時のメインストリートで、この通り沿いに「うなぎの寝床」(細長い土地)のような町屋が並んでいました(「地図」と「生家の間取り図」参照のこと)

当時、ギエモンゆかりの地を治める有馬家の久留米藩(21万石)と鍋島家の佐賀藩(35.7万石)、また島津家の薩摩藩(77万石)は、いずれも外様大名ですが、もともと名藩で、激動の時代にさらに力をつけていきます。幕末維新时期において、ギエモンの活躍の影響もあり、特に薩摩藩と肥前藩は、雄藩として活躍していきます。



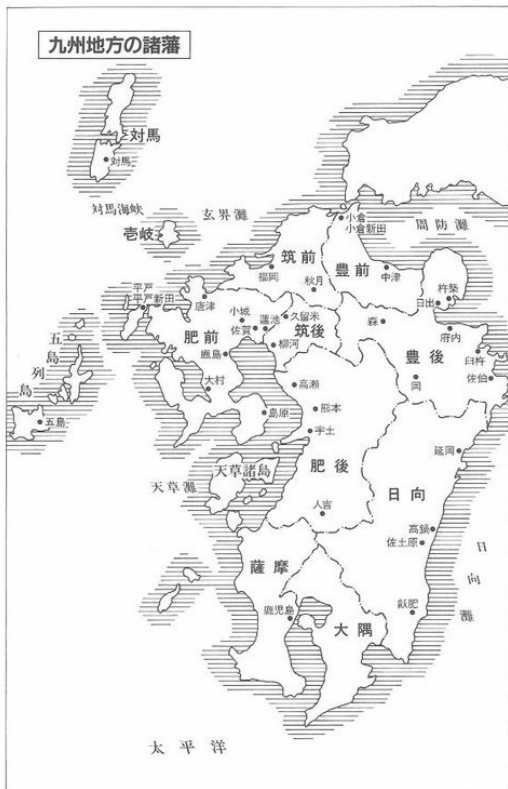
出典：GoogleMap WAKE-祥さん2023年10月撮影「田中久重翁生誕の地跡」福岡県久留米市通町113-16



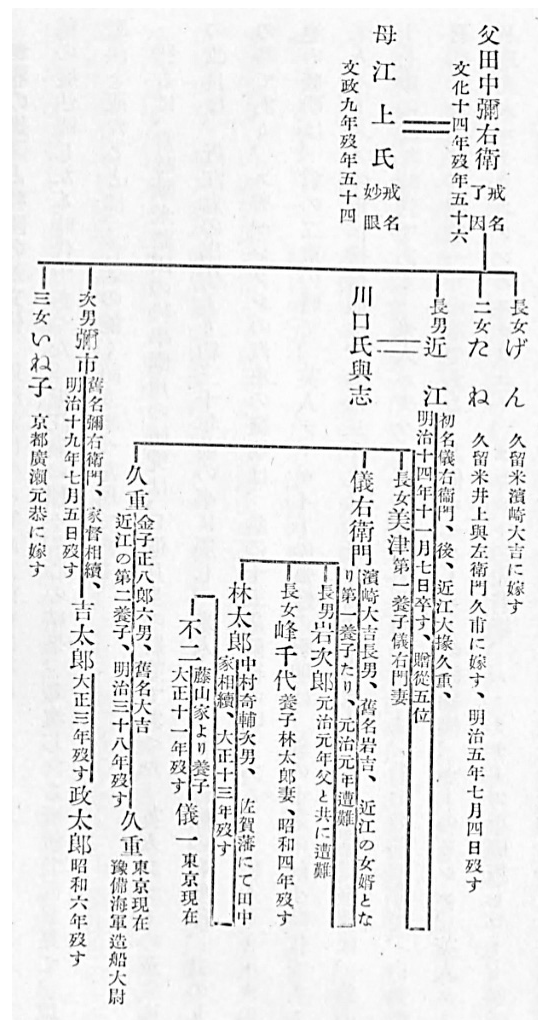
現在の九州地図 出典：GoogleMap

男(嫡男)で幼名は岩次郎といいました。(ちなみに幼名ですが、平安時代から始まったようで、嫡男は同じ幼名や名を継承しまして、成人、いわゆる元服を迎えると改名します。元服の年齢は諸説あり、12～16歳のように。明治の戸籍制度導入により、この習慣はなくなりました。次の「田中家累系譜」にあるように、のちにギエモンは「久重」(名)、「近江」(名誉称号)、息子が「二代目儀右衛門」、孫が「岩次郎」と呼ばれます。

さて、生まれた順でいうと、長女げん、二女たね、長男ギエモン、次男の彌市、三女いね子、の三女二男の5人きょうだいで、ギエモンが嫡男(後継ぎ)でした。



幕末の九州における諸藩の地図  
出典：全国 史跡巡りと地形地図 幕末維新三百藩 城・陣屋跡巡りと地形地図 九州地方の諸藩



**田中家累系譜**  
ギエモンの妹、三女のいね子は、素晴らしい蘭学者、広瀬元恭の元に嫁ぎます。 出典：田中近江大掾、田中近江翁顕彰会

さて、ギエモンは、父は弥右衛門、母は江上女(江上家のむすめ)の元に生を受けます。父が38歳、母27歳の時の子で、ギエモンは長